

五種混合（ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ・ヒブ）

ジフテリア、百日せき、破傷風、ポリオ、ヒブの5つの病気が予防できるワクチンです。

★病気の説明

【ジフテリア】

かかると重い病気で、呼吸困難をおこし、命をおとすこともあります。心臓や神経がおかされ心臓麻痺や神経麻痺をおこすことがあります、大変危険です。

【百日せき】

百日せき菌の飛沫感染でうつります。普通の風邪のような症状で始まり、続いてせきがひどくなり、小児の典型例では、顔を真っ赤にして連続的にせきこむようになります。熱はあまり出ません。しかし乳幼児はせきで呼吸ができず、けいれんがおこることがあり、また肺炎や脳症などの重い合併症をおこし、命をおとすこともあります。大人の症状は長引くせき程度ですが、乳幼児への感染源になることがありますので、注意が必要です。

【破傷風】

ケガをしたときに傷口から破傷風菌が入っておこる病気です。傷口が小さくても感染の危険性があります。破傷風菌の出す毒素は、神経麻痺、筋肉の激しいけいれんや呼吸困難などをひきおこします。死亡率が高い病気であるため、あらかじめ予防接種を受けて免疫をつけることが大切です。

【ポリオ（急性灰白髄炎）】

ポリオウイルスによって四肢に麻痺がおきる病気です。わが国ではワクチンの高い接種率のおかげで地域での自然感染による患者発生はありません。しかし、一部の国では今でもポリオの流行があり、さらに近年では先進国の大都市においてポリオ患者の発生や環境水からポリオウイルスの検出が報告されています。そのため、このウイルスがいつ国内に入ってくるかわかりません。また、それらの国々に出かける時に十分な抗体がないと感染する危険があります。

【ヒブ（インフルエンザ菌 b 型）】

ヒブ（インフルエンザ菌 b 型）は、ヒトからヒトに飛沫感染します。感染すると中耳炎や肺炎をおこすことがあります、まれに脳と脊髄を包む膜に炎症（髄膜炎）をおこすことがあります。診断・治療が非常に難しい感染症です。

★予防接種の受け方

- ・接種対象年齢：生後2か月～7歳6か月未満
- ・接種する回数と間隔



	標準的な接種期間	接種回数等
I 期初回	生後2か月に達した時点から 生後7か月に達するまで	20日以上の間隔で3回接種
I 期追加	I 期初回（3回）終了後、 6か月から18か月までの間隔において	I 期初回接種（3回）終了後、 6か月以上の間隔で1回接種